

前月比
人口 72,837(+50)
男 34,799
女 38,038
世帯数 20,748(-11)

# おおだて

4月号 (No.261)

編集と発行 — 大館市役所  
(電話)42-1212  
発行年月日 — 昭和54年4月1日  
発行日 — 毎月1日

広報紙は、行政協力員を通じて全世帯に配布  
しています。届かなかったり、配布が遅い  
ときは、総務課秘書広報係へご連絡ください。

昭和43年3月1日第3種郵便物認可(1部5円)

## ぼくもわたしも一年生

…54年度新入学児童は1,105人…



大館市入学おめでとう大会

3月17日市民体育館で行われた「入学おめでとう大会」

ご入学おめでとうございます。  
今年度の新入学児童は、市内14小学校合わせて1,105人(男子562人、女子543人)で、昨年度に比べ42人の増となっています。入学式は各校一斉に4月2日午後1時から行われます。  
入学式に先立ち、3月17日には「入学おめでとう大会」が市民体育館で開かれ、新入学を間近に控えた子供たちが楽しいひとときを送りました。  
この日は風雨に見舞われる悪天候にもかかわらず、お母さんに手を引かれて詰めかけた子供たちで、会場はたちまちいっぱいになる盛況ぶりでした。  
まず、石川市長から「交通事故や病気に気をつけて、元気ががんばってください」とお祝いの言葉が述べられ続いて城南小や城西小のお兄さん、お姉さんたちの器楽合奏や奇術で楽しみ、それに交通巡視員による交通安全教室で交通ルールを身につけるなど、みんなで一早い一年生気分を味わっていました。



楽しいひとときをすごす子供たち

### 行政報告



市長 石川 芳男

3月定例会議会が招集された3月5日議案説明に先立ち、石川市長から行政報告がありました。そのなかから主なものを市民の皆さんにお伝えいたします。

**◆水田利用再編対策事業について**  
53年度の農業施策の中で、最も重要な課題であったこの事業につきましては国の方針と県の指導に従い、大館市水田利用再編対策協議会にはかつて、割当てを受けた283haを各農家に配分し、集団計画転作を中心に農協、農事連絡員、指導センターの援助のもとに推進しました結果、各農家の理解と積極的な協力のおかげで322haの転作が行われ、目標達成率は全県平均とほぼ同じ113.8%となりました。

稲作は、夏期の異常天候により、高温と水不足に悩まされましたが、平年作を大幅に上回る10a当り582kgの最高収量を記録する豊作となりました。  
転作特定作物の大半を占める大豆の作柄もよく、収穫乾燥調整施設の設置、優良種子の確保、排水改良など基盤整備が

行われることにより、転作作物の定着化の方向づけができるものと思われま。

2年目を迎える54年度も、国の基本方針どおり県からの配分が示され、53年度と全く同じ283haの転作面積と土地改良通年施工面積1haが割当てになりました。これについても53年度の実績をもとに集団計画転作を推進して、転作作物の定着化と、農林業の複合経営を確立する諸事業を積極的に実施してゆきたいと思えます。

#### ◆自治省関係の特定不況地域の指定について

本市では、昨年の通産、労働両省の指定に続いて、今年1月13日に自治省に係る特定不況地域の指定を受けました。

この指定に基づく具体的なメリットについては、まだ的確な情報をつかめずをもちえている段階です。今のところ、税財政上の特別措置として、業種転換のための施設整備、新増設、及び一定以上の離職者の雇用を伴う企業設備の新増設に対する税の軽減、また景気刺激のための公共事業及び大規模な改修事業を含む単独事業等に対する地方債は弾力的に運用すること、その他特別な施策の推進に必要な経費については、地方交付税で財源措置を講ずるなどの方針は示されているものの、具体的な細目については、まだ発表されていないので、今後の推移に十分留意し、的確な対応をしていきたいと考えております。

なお、昨年指定を受けました通産省の中小企業対策臨時措置法による、本市における特定不況業種の認定状況は、3月5日現在までの認定事業所数は、事業所総数4,028件のうち32件で、申請され

た事業所の全部を認定しています。

#### ◆秋田労働総合福祉センター矢立分館について

かねてから誘致を要望していましたこのことについては、53、54年度で建設されることになりました。

事業主体は、雇用促進事業団、秋田県地元大館市の三者で、概算総事業費は8億円と見込まれ、その内訳は国が3億5,000万円、県が2億1,500万円、本市が3,500万円となっています。

建設場所は、国道7号線を青森方向に向かって左側の矢立峠に近く、天然秋田杉の保存林を展望する景勝地です。

敷地は面積6万3,136平方メートルの県有地で、建物は本館が鉄筋コンクリート造5階建、その他付帯施設を合わせて建物総面積は2,002.8平方メートルとなっています。

工事は54年度に完成し、55年度からオープン予定であり、市民の余暇活動の場が一層充足されることになり、その完成が待たれるところです。

#### ◆国、県の事業について

国道7号線バイパスは、既に過去3カ年にわたって調査されていることはご承知のとおりですが、54年度中にはいよいよルートを設定し、55年度は実質調査に入る予定であると聞いています。

103号線バイパスは、関係当局の努力と土地関係者の理解あるご協力により狭間、曲田間の用地買収も殆んど終わり54年度は約8億円の予算で工事に着手し、東北縦貫高速自動車道の開通に間に合わせて、58年度で整備完了したい意向だと伺っています。

道路維持関係では、本市から要望していました陣場の今度渡橋の歩道橋、芝谷地付近の歩道及び桂城公園脇の地下道の設置が、54年度事業として計画整備されると聞いています。

県関係では、まず長木バイパスが54年度で舗装工事が完了し、全面開通する予定とのことです。花岡・越山・早口線は2年目を迎え予算額6,000万円で施工、また、交通安全施設整備事業には8,600万円、引欠川及び大森川関係は1億2,600万円、古川町、愛宕町地区の急傾斜地対策に公共事業として2,800万円、同じく十二所、長倉地区には県単で1,200万円、山館地区の道路改良に5,600万円がそれぞれ計上されていると聞いています。

建築関係は、鳳鳴高校改築事業は53と54の両年度の継続事業として実施されていますが、54年度は3億900万円が引続き校舎工事が進められ、55年度には体育館を建設する予定とのことです。なお、工業高校の改築は、県の6月補正の予算要求に持込まれる予定と聞いています。

国、県の農林事業のうち、土地改良関係では県営事業として、別所地区森吉沢老朽溜池改修工事に5,400万円、長木沢ダム調査費として、国、県合わせて940万円が予定されています。

林業関係では、継続事業として行っている峰越林道瀬田石巻の本市分1,200万円を3,600万円で今秋完成の予定であり、治山治水保安林改良等の事業として花矢地区寺ノ沢、萱飯戸沢(カヤゲトサワ)、二井田地区大子内等に8,400万円が計上され、工事が実施されることになっています。